自己評価票

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
１．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域とつながっている事が支えられるように商店街の定期五日市に出店したり等、地域の雰囲気を楽しめる機会に取り組んでいる。共生社会作り“共に生きる”を理念とし、全員が共通認識としている。	○	様々な機会を捉え、認知症啓発パネルの展示などを積極的に行い、認知症の理解を深めるコンサート等も行っている。高齢というだけではなく、子どもであっても、障害があっても暮らしていける社会作りの一端を担う。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミッションステートメントや「職員憲章９カ条」があり、「共に生きる」という理念のもとに職員の各レベルに応じてミッション教育を行っている。	○	各職員レベル毎の宿泊研修等で、管理者や職員が理念の共有が出来る機会を設けている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	おおむね２ヶ月毎に行う地域運営推進会議には地域、家族会、行政等、多くの出席を促し、共生社会作りのための諸課題について、それぞれの立場で話ができる機会を作り出し「モデル事業」として取り組んでいる。	○	市営の畑を借り、季節の野菜づくりに取り組み利用者さんや地域の方に指導を頂きながら、スタッフも共に畑作りをしている。
２．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	介護予防施設とも隣接しており、隣近所の方々が通所されているため、当グループホームは地域の中にとけこんでいる。	○	不定期ではあるが認知症に対するビデオ鑑賞会等ご近所を誘い行っている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	グループホームの職員は自治会の旅行等には定期参加し、バスの中でグループホームについての説明などをさせてもらっている。	○	地域の種々の集会等にも積極的に参加し、パンフレットを配布したり、認知症の理解が深められるように説明をしている。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	納涼会や餅つき大会等、季節の様々な行事を通して地域貢献し、子どもから高齢者まで喜んでもらっている。	○	価格だけで業者を選ぶのではなく、グループホームに関る食材やその他商店街などで調達できるものは地元で購入し、地元とのよいコミュニティー作りのために地域還元している。
３．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	「評価に取り組む」、そのことにすなわち意義がある。「他者の風が介護の質の向上や学びにつながる」事を憲章とし、「慣れても馴れない」として掲げている	○	常に新しい風を感じられるよう。今までも大学の実習施設になったり、ボランティアの受け入れをしてきたが、更に受け入れ校を増やす予定。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議を行い、開催数・出席者とも市内でも一番多い。会議内容はまとめられ出席者に送付し、誰でも閲覧できるようにしている。	○	運営推進会議が各グループホーム毎だけでなく、市全体のグループホームの質の向上につなげられるようネットワーク作りにも取り組んでいく予定。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	相談事は保険者である市の窓口に積極的に出かけ相談している。毎月１回は市の委託による介護相談員が来訪しており、行事に参加したり意見交換等している。	○	高齢介護課だけではなく、他課の協力を得ながら、耐震補強工事の助成金等の協力も得ている。今後もスプリンクラー等、設備面の助成を受け、安全面などにおいても質の向上を図る。担当課だけではなく他課にもアプローチしていく。キャラバンメイト事業にも取り組んでいく予定。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	家族会や職員会議等において成年後見制度について学ぶ機会を設け、必要な方には司法書士を紹介している。	○	司法書士に成年後見制度についてのパンフレット送付を依頼しているが、今後も機会を設けて啓発に取り組んでいく予定。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員との個々の面談機会を設け、個々の抱える職務上のまたは、生活の悩み等を傾聴している。	○	人権や倫理について、又、虐待については職員のストレスマネージメントを含めて学習の機会を設けている。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
４．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	傾聴や共感を前提に説明し同意を得ている。	○	認知症の知識や成年後見制度等も含めて取り組んでいる。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に２回の利用者さん主体の自治会が行われており、食べたい物、行きたい所、されたい事等が話し合われている。職員はそれに添えるように協力し、利用者の意見を反映できるよう計画している。	○	利用者意見により、クラブ活動やコーヒーセラピー、音楽療法、又カニツアーや海水浴なども実現しており、今後も続けていく予定。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日々のお写真と共に、生活の様子は生活プランニング表や月間サマリー等で報告している。	○	紙媒体だけではなく、事業所の様子等はホームページでお伝えしているが、個別のログインナンバーも作成している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情のレベルに応じて管理者、家族会、相談員、市役所、国保連などを通じて外部へ表出できる。	○	常に家族の立場に立って説明しており、苦情、クレームについては家族会で報告し、原因や解決に至るまで経過も明らかにしている。又、その件に対してのアンケートもとっている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月１回の職員会議を開催し、意見や提案を聞く場を設けている。	○	年１～２回、職員のコミットメントを文章化してもらうが、良い提案等に対しては職員報酬制設けている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員はそれぞれ個々の事情を相互補完しながら勤務しているが、それが出来るようにゆとりある職員体制を心がけている。	○	特に女子や母子、又、介護を抱える職員に対して対応できるよう就業規則を大きく改正し活用している。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	少しずつの入れ替えはやむをえないが大幅な変更が無いように十分に配慮している。変更の場合は機会を設けて紹介している。	○	退職理由は結婚や親の介護等様々であるが、利用者自治会で説明し、「かわらばん」で理解を得るよう努力している。
５．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて資格取得をすすめ、取得に対する助成金や勤務の配慮をしている。	○	法人内レベルは５段階に分かれており、レベルに応じての学習の機会はとても多い。それぞれが補完できる仕組みになっている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の８割のグループホームへの訪問を行った。それぞれの良いところを吸収し、質の向上を努めている。	○	他のグループホームも当ホームの地域運営推進会議に積極的に参加できる機会を提供に取り組んでいく。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	「同じ釜の飯を食べる仲間」として家庭的であり、なんでも相談できる雰囲気である。	○	職員は茶道、日舞、三味線、大正琴等のクラブ活動が用意されており、クラブ活動を通しての人間関係作りもされている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	ほんの少しの成長であっても自信につないでいけるよう、資格取得に対しても時間調整を図ること等に努めている。	○	個々の努力によってスキルアップした事を評価するお祝い会を年２回程度設けている。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時は特に不安が大きいと予測されるため、認知症やＡＤＬ、ＩＡＤＬ、又、家庭環境などを含め、本来ニーズがどこにあるか見極められるよう取り組んである。	○	本人の暮らしてきた歴史や環境、また、本人の持てる力を重視して傾聴している。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	認知症やＡＤＬ、ＩＡＤＬ、又、家庭環境などを含め、本来ニーズがどこにあるか見極めるよう取り組み、家族の不安の軽減に努められるよう、暮らしぶりなどを情報提供している。	○	家族の心や体の介護軽減を重視して傾聴している。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症であっても、自傷、他害等の強い精神症状など共同生活が困難な場合は、適切な治療をすすめるように努めている。	○	在宅メニューの組み合わせにより、在宅が可能な場合はグループホーム以外の選択肢も提示する。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	個々のケースに応じて不安が強い場合はショートステイからの開始が可能である。	○	お試しでのショートステイ利用は一般的に周知されておらず、介護相談時に進めるよう取り組んでいる。
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑作りや和風料理等、若い人たちが知らない事等を昔とった杵柄で教えてもらっている。	○	干し柿作り、わらぞうり編み、そば打ち、栗むき等の貴重な技術を教えてもらっているが、手続記憶をよびもどすような環境作りも益々努めて生きたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	「あなたの悩みは私の悩み、そして社会の悩み」として共に支えあい、私の親だったら、と思える姿勢を常にもてるよう学習・指導している。	○	家族会においてはビデオ学習等で、共に認知症を理解し「利用者さんの笑顔」が家族や職員の喜びとなるよう今後も取り組んでいく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	お盆やお正月に家に帰れなくても、ホームに家族が来られて団欒が過ごせるように努めたり、自宅に帰られる事も支援している。又、日々の暮らしの写真等も多く送付している。	○	看取りケアの中では家族と利用者さんが打ち解ける場面であり、思い出話等のブリーフケアで、心の氷があれば溶ける環境作りを支援している。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会日や時間においても常識的な範囲であれば特に制約していない。年賀状等の手伝い等もさせてもらっている。	○	会いたい人に会える等の自己実現に向けては、グループホームだけではなくフォーマル・インフォーマルな社会資源も活用していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	クラブ活動やレクリエーションを通じて仲良くなれる機会の提供や、新入居の場合、自治会長等の助けを通しても支援してもらっている。	○	グループホームは自立も大切にしており、仲良しの方はお互いの居室に寄り合って、お茶を飲んだり、テレビやおしゃべり等を楽しんだりされている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	死亡退所された家族も折にふれ、みえられたり、お手紙を頂いたりしている。ＮＰＯとして社会福祉の一端を担っており、絆やつながりを大切にしている。	○	看取りケアを家族と一緒に行うため、その後のつながりは大変強く、グループホームはそのような方々にも支えられている。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
１．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護相談からもバックヒストリーの聴取からもこれまでの関係を理解することができ、グループホームはそれらのクッションになれるように努めている。生活リズムを整え、健康的な良い環境を提供していき、無理強いせず本人の快と本人のペースを大切にしている。	○	グループホームは暮らしの場であり、その方のニーズにより医療と看護、介護のバランスに配慮している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々様々な生活歴があり、「昔とった杵柄」を活用し、強みをホームの中で活かすことができるよう、情報収集にも努め、情報は回想法にも活用している。	○	パーソンセンタードケア（全人的ケア）でその人らしさや自尊心を維持できるように計画立案している。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ADL、IADLを把握し、セルフケアをアセスメントすると共に、本人の自立度においてニーズのある部分をサポートしている。	○	職員は「お世話と余計なお世話」を見分けられなければならず、その方の本来のもつ力をそぎとってはならないことを大切にしている。
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	計画はその月の成果目標と援助目標、課題分析をあげ、現在の課題をアセスメントしながら具体を導いている。	○	計画は常に動的であり、「ケアは常に根拠を持って」を方針としている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画は状況に応じて適宜変化させているが、入院期間中などホームを離れているときは計画を中止している。計画は家族の同意も得ている。	○	今後も柔軟な計画を立てられるよう取り組んでいく。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメントできるように、計画はＳ，Ｏ，Ａ，Ｐ方式とし、電子カルテで情報の共有を図りながら、モニタリング等での根拠も明確にしている。。	○	Ｓ，Ｏ，Ａ，Ｐ方式や電子カルテは導入したばかりであり、今後も充実に努めていきたい。
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当グループホームでは、ターミナルケア時等に家族や親戚等が宿泊できるような環境を提供している。	○	グループホームの機能を広げ、遠方からの面会者がある時も居室において一緒に食事や宿泊ができるように取り組んでいきたい。
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署の協力を得て、利用者さんを交えて消防訓練を実施している。市民救命サポーターステーションを取得している。	○	利用者さんの製作品等を老人会で展示する等、自己実現の機会を捉えて交流に努めている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホーム以外に、法人がデイサービスや介護予防サービスを運営しており行事等に参加している。	○	音楽療法をはじめとする、今後も多様なサービスを今後も提供していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域運営推進会議メンバーに地域包括支援センターが入っており、課題等については協働し情報の共有に努めている。	○	今後とも各グループホームの抱える課題は多くのホームの課題であり、地域の課題として協働しながらの解決に努めていく。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診専門の医療機関と提携しており月２回の定期往診により、居宅療養管理ができるよう支援している。	○	２４時間３６５日、いつでもの医療連携に努めております。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ホーム主治医は精神内科医であり、ＭＲＩやＣＴの必要時には専門医への紹介状を頂きスムーズに受診できる。	○	今後も認知症の進行や症状に注目した医療を受けられるよう支援していく。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携しておりホーム内ナースが健康管理をしている。	○	今後も看護師による健康管理ができるように努めていく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	グループホームから病院に対してのサマリーを提出している。また、病院の相談員とも連絡調整している。	○	今後も早期退院に向けた医療機関との協働に取り組んでいきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームドクターとのインフォームドコンセントは定期的に、又、必要時適宜行われている。	○	今後も重度化や終末期に向けた方針を共有していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームドクターとのインフォームドコンセントは定期的に、又、適宜行われており、ケアチームとも情報の共有をしている。	○	今後も同様に、全員で重度化や終末期に向けたチームでの支援に取り組んでいきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	社会資源の活用等の情報を提供し、グループホームとしてはクッション役やパイプ役になれるようソーシャルワークに努めている。	○	今後も慣れ親しんだ環境作りに取り組んでいきたい。又、経年的に事例を構築し、柔軟にニーズに対応できるよう取り組んでいきたい
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **１．その人らしい暮らしの支援** （１）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人権や倫理に基づいた接遇やマナー等の研修を行っている。	○	「自分がされたら、言われたら、自分の親がそうされたら」等、自分に置き換えて考えるように指導している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	「附におちる」　日々を自分らしく送っていただけるよう支援している。	○	今後も日々を自分らしく送っていただけるように支援していく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームの主役は利用者さん一人一人であることがスタッフ全員が理解している。	○	グループホーム協会や認知症ケア学会等に参加して、今後も一人一人の人生を大切にできるよう、スタッフ研修を継続していく。
（２）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	エステ、マニュキア、カット等、又、外出時のＴＰＯに配慮している。近くの美容院へもパーマに出かけられている。	○	おしゃれは本人の自尊心を高める事でもあり、家族も嬉しいことであると取り組んでいる。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感があり、目で見てもきれいで、家庭的な雰囲気でもあるように努め、食事中のコミュニケーションも大切にしている。。	○	温度や食べやすさにも配慮している。今後も更に楽しめる食事の提供に努め、昔懐かしいもの等食文化の構築に努めていく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	人によっては晩酌であったり、ビールであったり、行事や状況に応じて対応している。	○	利用者自治会でも食べたいものは多く意見が出されており、今後も意見にそっていきたい。
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	「恥かしい」思いをしないようにプライバシーは特に配慮している。	○	介護にとって、一番の思いやりが必要な場面でもあり、今後とも気持ちよい排泄の支援に努めていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	身体を清潔にするだけではなく、入浴は心のホリデーであり、香りや温泉気分では入れる入浴剤を工夫する等のリラックス場面を提供している。	○	お風呂は仲良し同士で行きたい、皆で入りたい、一人で入りたい、入りたい時間等ニーズは多く、ニーズにできるだけこたえており、今後ともお風呂という裸の付き合いなどの横文化作りにも取り組んでいきたい
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ホームは廊下、談話室、食堂等に充分なゆとりやリラックスできる場所やコタツ等もあり、居室でもいつでも休息できる環境である。	○	ホーム内の音楽環境も朝は“小鳥”で目覚め、食事は軽音楽とバックミュージックを工夫しており、今後も努力していきたい。
（３）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常リハビリとして配膳、食器拭き、洗濯たたみ等その人に会った役割を支援している。日々の楽しみが毎日用意されており、ひとときの非日常でリフレッシュできるよ機会を作っている。	○	日常生活の中で役割分担は自然に決まっている。自治会等で利用者さんのお国自慢をしていただく等自己実現の機会を作っている。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お買い物行事などで、おやつなどが買えるよう支援している。	○	行事で遠方に出かける時等、お土産などを買ったり、お金を使う楽しみの機会は多いが今後も益々取り組んでいきたい
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々のニーズには臨機応変に対応している。犬を連れての散歩等、近所にも出かけるが、ホームには中庭があり自由に楽しめる。	○	行事も多く、戸外に出る機会は多いが、今後も益々取り組んでいきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	自己実現に向けての支援に対しては個別に計画している。海水浴やドライブ等、利用者さんの希望に沿って行っている。	○	利用者個々それぞれのニーズは墓参りや友人宅など、多岐にわたるが家族の居ない利用者さんには特に留意している。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により、代筆をしたり、電話番号を押すことや取次ぎ等の支援をしている。	○	各個人が携帯電話を持つ事なども多いが、制約していない
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	グループホームはご本人の家と同じであり、訪問に対しては特に制約はしていない。面会時にはお茶の接待等、希望により面会室も用意している。	○	来訪者には気持ちの良い挨拶など、おもてなしの心をつくしている。
（４）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームは身体拘束をする施設ではなく、拘束はしない。運営規程においても身体拘束をしない旨を表明している。	○	精神症状が強く、自傷や他害のある場合、専門的な医療機関を紹介している。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の鍵は利用者さんが自由に開け閉めできるものとなっており、玄関も中庭があり、開放している。	○	当ホームは中庭があるので寒い時や、雨の日以外は開放しており、庭でのティータイムは戸外浴の良い機会ともなっている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室前に小窓があり、居室内の様子をそれとなく伺うことができる。	○	のれん等を工夫して、プライバシーには配慮している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	合理的で機能的である前に人間的であることに配慮し、一人一人の状態をアセスメントし危険を回避している。	○	スタッフ側に都合ではなく、利用者さんの有機的なその人らしい環境を優先している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒リスクアセスメント表を作成している。ADLに応じて一階、二階の居室配置に配慮している。	○	ホーム内スリッパを廃止し、転倒予防している。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ほとんどの職員が救命講習を受講し、救命サポーター施設となっている。又、豊中消防署より市民救命サポーターステーションに認定されている。	○	不定期ではあるが１１９番・１１０番のかけ方などのトレーニングをしている。また、布団などを利用した運搬方法等も訓練している。お正月前にはのど詰め予防トレーニングしている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地震に対しては耐震診断を受け、補強工事を完了した。災害時の食料や水等の備蓄をしている。	○	災害時の大鍋をつかった炊き出し訓練もしている。職員は新型ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞを含め災害時に対応できる体制になっている。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	主治医とのインフォームドコンセントによりケア方針が話され、家族さんには特に転倒等のリスクアセスメント表を提出している。	○	ケースによっては足のあがり等、写真をとって説明している。今度もリスクマネージメントに取り組みたい。
（５）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	「いつもと何かが変」というと気付きを早く口に出して、チームに伝えられるよう観察トレーニングを実施している。	○	スタッフには何が正常で、何が異常であるかの学習や老年学の学習を提供している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬BOXの薬のセットは誤りを防ぐため薬剤師に依頼している。服薬時は顔と名前又服薬確認をしている。	○	今後も薬に関しての理解を深めていけるよう研修にも取り組んでいく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘は水分・運動・セルロースの多い食事が関与しており、一人一人の飲水の目安などを定めている。	○	「高齢になると脱水になりやすい」という病態生理を理解できるような学習の機会を提供している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアは毎食後行っており、入れ歯の洗浄や歯磨き、うがいを支援している。	○	「うがいをするとさっぱりして気持ちが良い」という快の生活習慣の構築に努めている。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養や水分摂取の目安は計画の中に入っており、不足する場合は食事形態や嗜好に配慮し、食事回数を変更するなど工夫している。	○	今後も栄養や水分摂取には個々に留意して取り組んでいく。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	職員出勤時には手洗い、うがいを励行している。感染症に対するマニュアルがあり、風邪をひいている面会者等は遠慮していただいている。	○	嘔吐物等に対してはノロウィルスかもしれないを前提に対策キットを用意している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫、冷凍庫は充分用意されており、食中毒季節には食中毒に対する大腸菌、サルモネラ菌、黄色ブドウ球菌、腸炎ビブリオにチェックスリーを実施している。	○	今後も同様に予防を中心に取り組んでいきたい。
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （１）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに中庭があり、近隣の方も立ち寄りやすく、利用者の方との良いコミュニケーションの場となっている。	○	ティータイムなどゆったりとすごせるよう、坪庭風の空間作りに取り組んでいる。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体は昭和初期のレトロな雰囲気であり、金魚や犬等のふれあいなどもできる。談話室などもゆったりしている。	○	中庭もあり圧迫感が無く、ゆったりとしたホームであり、開放的である。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室等は和風の家庭的な雰囲気であり、応接間、廊下の椅子等も多くある。	○	回想法を利用して、昔懐かしい雰囲気を大切にしている。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が住みなれた部屋をできるだけ再現するように工夫している。	○	季節感を感じられるようにレイアウトを工夫している。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期、又は随時の換気や緑の植物を多く取り入れ、水辺を作る等で湿度も確保している。	○	アロマテラピーを利用したり、時々、香をたいたり等しており、加齢臭、尿臭はない。
（２）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自然な形でさりげなく手すり等が設置している。	○	単に手すり等をつけるのではなく、デザイン力をいかして竹などで手すりを工夫している。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	時計やカレンダー等は大きいものを用意してわかりやすくしている。	○	自分の部屋やトイレ等がわかるように、見当識障害に対する環境整備には今後も取り組んでいく。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭があり、洗濯物を干したり花の水やり等、自由に出入りでき、犬等もいて楽しめる。	○	窓も大きく、町並みも良く見える。階段には大きな踊り場や吹き抜けもあり、コミュニケーションの場にもなっている。

（　　部分は外部評価との共通評価項目です　）

Ｖ．サービスの成果に関する項目

項　目		取り組みの成果 （該当する箇所を○印で囲むこと）
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の２/３くらいの ③利用者の１/３くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に１回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の２/３くらいと ③家族の１/３くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ○ ③たまに ④ほとんどない

項　目		取り組みの成果 （該当する箇所を○印で囲むこと）
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○　①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○　①ほぼ全ての職員が ②職員の２/３くらいが ③職員の１/３くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○　①ほぼ全ての家族等が ②家族等の２/３くらいが ③家族等の１/３くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

ＮＰＯ法人オリーブの園は、グループホームだけでなく、豊中市の指定管理者として空き教室を利用した「豊中市立柴原老人デイサービスセンター」や、地域に密着した介護予防事業として大阪府・豊中市の助成事業であります「街かどデイハウスハーモニー」等に取り組み、平成１９年１１月には共生社会づくりを評価され、大阪府女性基金プリムラ奨励賞を受賞する事が出来ました。今後もＮＰＯ法人として地域に根ざす共生社会づくりに貢献してまいります。